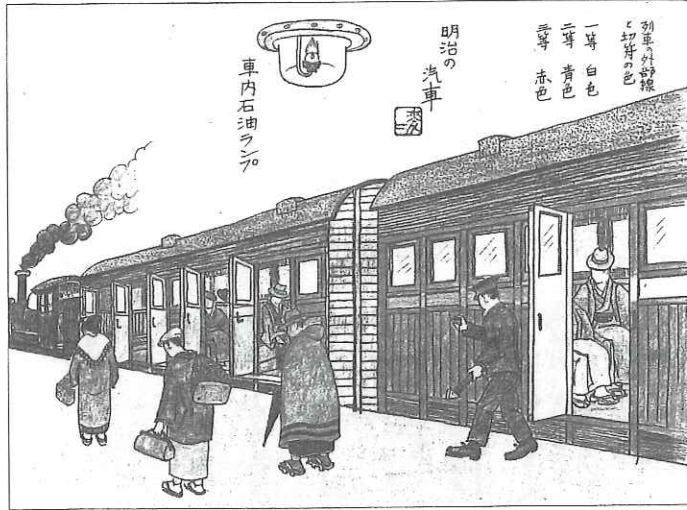


### 3 海陸交通の発達

#### 山陽鉄道の開通と徳山港の繁栄



山陽鉄道の客車絵図 前田麦二画

明治30年9月25日に、広島と徳山との間の山陽鉄道が開通すると、徳山村は俄に活況を呈した。

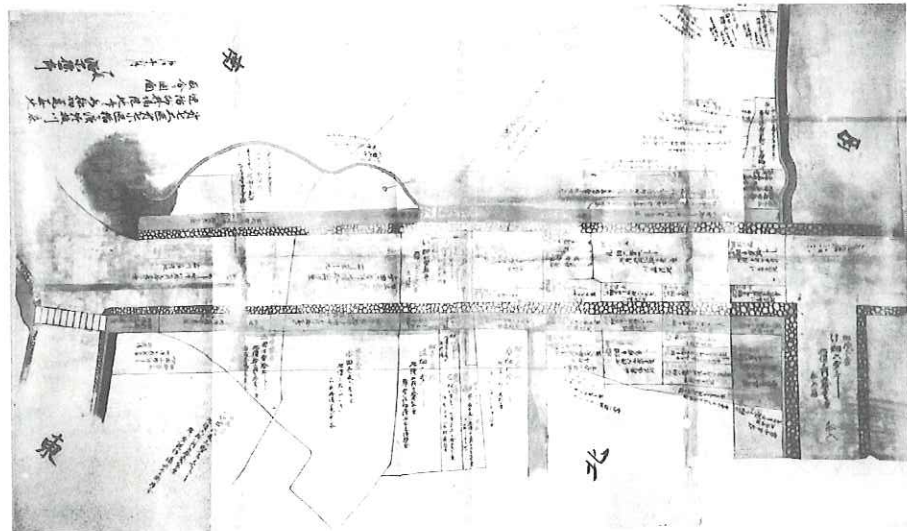
徳山駅が終着駅であったので、徳山港と門司港の間を門徳汽船が、1日に3往復するようになり、連絡船が運ぶ旅客を目当てに、駅付近には旅館が増築され、商店が立ち並び活況に満ちたという。

この景気にあおられて、同33年10月15日に町制が施行され、徳山村は徳山町へと発展していった。

#### 堀川運河の開通

大島半島は、もとは陸続きで海路を徳山から下松へ行くには、半島を迂回しなければならなかった。そこで区長藤田与次と戸長温品孫四郎等は、運河を計画し明治6年2月に着工して、翌7年4月に完成させた。

延べ1.4km、深さ4.5mで、従事した人は延べ2万3千人に達し、工事費は7,800余円を要した。満潮の時には、30トンの船が航行できたといい、明治初期にこれだけの工事は、全国でも珍しいという。



第七大区第七小区櫛ヶ浜堀抜川床堤防砂捨場潰地并ニ水脈切荒蕪地取分ヶ図面